

**2011FIA 世界ツーリングカー選手権**  
**(FIA World Touring Car Championship: WTCC)**

**開催について**

2010年8月22日

株式会社モビリティランド  
鈴鹿サーキット

## 世界最高峰のツーリングカーレース WTCC 2011 年秋に鈴鹿サーキットで開催！

2011年秋、世界最高峰のツーリングカーレースであるWTCCを鈴鹿サーキットで開催いたします。

鈴鹿サーキットの特長である魅力的なコースレイアウトから生まれるエキサイティングなレースを核に最新の設備、遊園地、ホテルなどの複合施設を最大限に活用し、より多くの方にお楽しみいただける新しいモータースポーツの価値創造を目指します。

### ■ 息もつかせぬ東コースの超接近バトルが2レース

2レース制で行われるWTCCは、スタート直後からチェッカーまで、全ラップでの激しいバトルが繰り広げられるのが特徴。

スタンド上部やVIPスイート席などからはバトルの様子が手に取るようにわかる東コースは、まさにレーススタジアムと化し、東コースとWTCCは最高のマッチングが期待されます。

また、1ヒート約30分というスプリントレースでは、速い車、強い者が前に出るわかりやすいレース展開で、観る者を飽きさせないレース本来の面白さを、多くの方に伝えるインパクトがあります。

### ■ スーパー耐久と併催で“ハコレース”の魅力が満載

スーパースプリントとも言える世界最高峰のツーリングカーレースWTCCと、フルコースで開催される国内有数の耐久レースシリーズ スーパー耐久のジョイントによって、これまでにないレースフォーマットを実施いたします。

ハコのレースの魅力がフルに詰まったイベントは、“新しいハコの祭典”としてお客様にお楽しみいただけることでしょう。

### ■ 新しいレースフォーマットでモータースポーツファンを創造します

WTCCというモータースポーツの迫力を身近に体験できるレースの魅力によって、新しいモータースポーツファンにお越しいただくことはもちろん、鈴鹿サーキットの様々な施設の活用や魅力ある付帯イベントによって、ファミリーを中心とした新しいお客様にお越しいただくことで、将来のモータースポーツファンの創造や自動車そのものへの興味喚起にも力を入れてまいります。

## 【大会概要】

大会名称:	2011 FIA 世界ツーリングカー選手権 WTCC 日本ラウンド(仮称) スーパー耐久シリーズ 2011 スーパー耐久・鈴鹿(仮称)
公認:	国際自動車連盟(FIA) / 社団法人日本自動車連盟(JAF)
主催:	<プロモーター> 株式会社モビリティランド <オーガナイザー> 鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
会場:	鈴鹿サーキット国際レーシングコース WTCC ※東コース(2.243km) スーパー耐久 ※フルコース(5.807km)
開催日程:	2011年10月22日(土)~23日(日)※予定 決勝日は2レースを開催 ※ 本日程はFIA世界モータースポーツ評議会にて最終決定となります。

## エキサイティングなレースを演出する東コース

世界各国の様々なサーキットで激しいバトルを展開しているWTCCは、2011年の鈴鹿サーキット 東コースを舞台に一体、どんなレースを見せるのか！？2010年シーズン各サーキットでのレースシーンを元に東コースでのレース展開、コーナーごとの見所を完全シミュレーション。

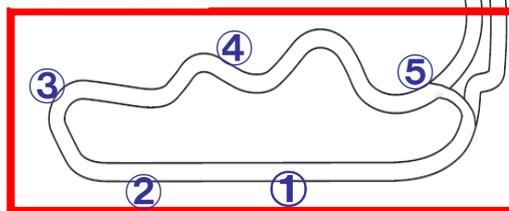
WTCCとの最高のマッチングと言える東コースは全てのコーナーが見所となる。

### 【鈴鹿サーキット 国際レーシングコース図】

フルコースは低速、中速、高速セクションがバランス良く組み合わされている。

フルコースの一部である東コースは、逆バンクコーナーあとの7.8%登り勾配から最終コーナーへと繋がるショートカットを用いたテクニカルコースである。

東コース部分



### ① メインストレート(スタート)

WTCCでは、第1レースがローリングスタート、第2レースがスタンディングスタートと定められている。スタート方式が異なるため、FR車対FF車のスタートダッシュ対決やターボを搭載したディーゼルエンジン車のトルク力など、見所の異なるスタートシーンを見ることができる。



2010年ベルギー ゴルダー



2010年ポルトガル ポルティマオ

### ② 第1コーナー手前

東コース最大のオーバーテイクポイントになりそうなのが第1コーナー手前。長いメインストレートを下りながら進入する高速の第1コーナーには、数台のマシンが集団のまま飛び込んでいくシーンがスタートからファイナルラップまで楽しめそう。



2010年ブラジル クリティバ

### ③ 第1コーナーから第2コーナー

WTCC では高速コーナーでのバトルも当たり前のように展開される。

第1コーナーから第2コーナーにかけての高速コーナリングでのポジション争いはこれまでのレースではあまり見られなかったシーン。WTCC ではストレートからそのままコーナーに進入し、第2コーナーまでサイドバイサイドで駆け抜けていく……。レースの醍醐味とも言える、見応えのあるオーバーテイクシーンの連続がこのセクションでは見られそうだ。

### ④ S字コーナーから逆バンク、⑤ 最終コーナーにかけてのテクニカルセクション



2010年ベルギー ゾルダー



2010年イギリス ブランズハッチ

これまでのレースではオーバーテイクが難しいとされていたS字コーナーから逆バンクコーナーにかけてのテクニカルセクションでもWTCCでは激しいバトルが期待できる。

今年のこれまでのレースでは、マシンとコースの僅かな隙間にフロントバンパーをねじ込んでのオーバーテイクが数多く見られており、マシン同士がぶつかり合うことやコースをはみ出しての走行もWTCCでは当たり前の光景となっている。

鈴鹿サーキットでWTCCの迫力ある接近戦を最も間近で感じることができるのは、S字コーナーから続くテクニカルセクションだ。



2010年モロッコ マラケシュ

## 東コース 観戦ポイント

WTCCでは東コースのほぼ全周が見所となるが、どのスタンドから観戦するかはポイントとなる。それぞれの観戦席でどのような楽しみ方があるのか、観戦ポイント別の楽しみ方を紹介する。

### ● VIPスイート

グランドスタンドの上部にある屋内空間のVIPスイートからは東コース全域を見渡すことができる。スタートからゴールまで全てを観戦することができる最高の観戦ポイント。



第1コーナー、第2コーナー

### ● ピットビルディング (VIPラウンジ、VIPテラス)

ピットビルディング内の観戦エリアは最もプレミアム感の高いエリア。2FのVIPラウンジは快適な屋内空間と屋外の観戦席を兼ね備えたプレミアムエリア。3FのVIPテラスは広々としたオープンエアのスペースと観戦エリアがあり、メインストレートとS字から逆バンクコーナーにかけての両方を見ることができる。

### ● グランドスタンド (V1、V2席)

V2席上段からは東コースの大半を見渡すことができる。また、ショップやPRブースが立ち並び賑やかなGPスクエアや遊園地、ホテルへのアクセスも良く、1日を楽しむことができる。



S字コーナー

### ● 第2コーナースタンド (B席)

大混戦のスタートシーンを2度楽しみたいのなら、B席が最適。もちろん毎周繰り上げられるバトルは誰もが楽しめる。

### ● S字から逆バンクにかけてのスタンド

マシンを間近でみたいのならコース裏手となるS字からのスタンド席。迫力のバトルシーンの写真撮影はもちろん、レースをはじめてご覧になる方もWTCCの迫力満点のバトルを目の前で堪能できる。



最終コーナー

## WTCC について

FIA 世界ツーリングカー選手権 (World Touring Car Championship : WTCC) は、国際自動車連盟 (FIA) が管轄するツーリングカーによるレース世界最高峰を争うレースシリーズ。

### 世界に 4 つしかない世界選手権の一つ

FIA が定める世界選手権は、フォーミュラ 1 (F1)、世界ラリー選手権 (WRC)、今年新設された FIA-GT1 選手権、そしてこの WTCC の 4 カテゴリーしかない。世界一の称号をかけた戦いが世界を舞台に繰り広げられている。

現在、WTCC にはドイツの BMW、アメリカのシボレー、スペインのセアトなどが出走しており、ヨーロッパでの高い人気は全世界に広がりつつある。2010 年は年間で全 12 ヶ国、12 大会 (24 レース) が開催される (※キャンセルの第 2 戦メキシコ大会を含む)。



イタリア大会 モンツァサーキットでの様子

### 急成長する WTCC

拡大を続ける WTCC は昨年、アフリカ大陸のモロッコで初開催。今年も大観衆を集め成功を収めた。また、アジアでは日本とマカオで開催し、マカオでは世界的に有名な F3 世界一を決定するマカオグランプリと同日開催される華やかなレースである。日本では 2008 年に岡山国際サーキットで初開催されて以来、今年を含め 3 年連続で開催されアジア地域での人気も高まっている。

そして、2011 年には F1 開催などで世界的に知名度も高い、鈴鹿サーキットで WTCC が開催される。



モロッコ大会の表彰式の様子

### 横浜ゴムが WTCC のワンメイクタイヤサプライヤー

WTCC では、横浜ゴムの環境性能を高めながら優れたグリップ力を発揮する WTCC 専用 ADVAN エコレーシングタイヤを全チームが利用している。非石油系オイルであるオレンジオイルが配合されたエコレーシングタイヤは高性能かつ、環境にも優しく、WTCC が掲げる環境配慮への取り組みに大きく貢献している。

また、WTCC 日本ラウンドを含め、国内で開催されるレースにおいてはヨコハマ・タイヤサービス・ガレージでグリーン電力を使用し、さらなる環境配慮への取り組みを行っている。

## 主なレギュレーション

### 他に類を見ない激しいバトル

F1、WRC に並ぶ世界選手権に数えられる WTCC の最大の魅力は、サーキットの格闘技と呼ばれる激しいバトルにある。レース時間が約 30 分 (50km) と短く (F1 は約 1 時間 30 分 300km)、スタート直後から勝負所の連続となる短期決戦がその激しいバトルを演出している。

### 観客第一のレギュレーション

決勝日には 2 つのレースが短いインターバルで行なわれるため、観客は緊張感あるレースを立て続けに見ることができる。また、重量ハンデ制度やリバースグリッド (速いマシンが後方からスタートする方式) など独自のレギュレーションを盛り込むことでバトルはさらに激しさを増し、観客を飽きさせない。

### ガソリンエンジン車とディーゼルエンジン車が混走

ガソリンエンジン車とディーゼルエンジン車が同じ土俵で勝負するのが WTCC の見所の一つ。日本ではまだ馴染みの薄いディーゼルエンジンを搭載したツーリングカーが WTCC では大活躍している。2008 年、2009 年は SEAT (セアト) が 2 年連続で年間チャンピオンを獲得するなど、その戦闘力はガソリンエンジン車を凌ぐ。それぞれのエンジン音や匂いの違いをぜひサーキットで感じてもらいたい。

### 競技レギュレーション

#### **予選:** リバースグリッドがさらなる混戦を生む

予選方式はいわゆるノックアウト方式により決定される。最初のセッションで上位 10 台に絞り込まれ、パート 2 セッションで第 1 レースのスターティンググリッドが決定する。なお、第 2 レースのグリッドは第 1 レースの 1 位から 8 位までを入れ替えたリバースグリッドとなる。

#### **決勝:** 異なる性質の 2 レースが大会を盛り上げる

約 30 分 (50km) の決勝レースを日曜日に 2 回開催する。2 つは独立したレースとして開催され、ポイントもそれぞれの順位に対して与えられるが、大きく 2 つの点で異なる性質をもっている。1 つは、スタート方式。第 1 レースは波乱の少ないローリングスタートであるのに対し、第 2 レースは順位変動が大きいスタンディングスタートとなる。そして 2 つ目が予選の項目にあるリバースグリッドの採用だ。

すなわち、第 2 レースでは本来速いドライバーが後方グリッドからスタートでのジャンプアップを狙い、第 1 レース以上の激しいスタートを見ることができる。その中でも、スタンディングスタートに有利な唯一の FR 車、BMW のスタートには注目だ。

#### **重量ハンデ:** 激しいバトルを演出する画期的なシステム

ハコ車のレースでは多くのカテゴリーで採用されている重量ハンデのシステムを WTCC も採用。その決定方法はいくつかの条件に基づき計算方法が異なるため、やや複雑に見えるが車種による格差を無くし、接戦を演出するという狙いは大成功しており、最先端のシステムと言える。

## マシンレギュレーション

ベース車両：親しみのある街を走っている市販車がベース

- ・連続 12 ヶ月中に 2500 台以上を生産し、FIA の認定を取得している車両
- ・ガソリンエンジン車両とディーゼルエンジン車両の両方が認められる
- ・4 座席以上の車両

エンジン：2011 年は 1.6 リッターターボエンジンへと移行

- ・排気量 2,000cc 未満 (2011 年は 1,600cc ターボチャージャーエンジンへと移行)
- ・ガソリンエンジン自然給気は 4 気筒から 6 気筒 (気筒数に応じて上限回転数が設定)
- ・ディーゼルエンジンは 4 気筒とし、ターボチャージャー (1 つまで) の使用可

## 2010 年の主な参戦マシン

- BMW 320si (唯一の FR マシン。ワークス、プライベートの両方で利用)
- シボレー・クルーズ (現在今シーズンのランキングトップ)
- シボレー・ラセッティ (2008 年までのワークスマシンをプライベートチームが利用)
- セアト・レオン (唯一のディーゼルエンジンターボを搭載)

## 参戦チーム、ドライバー

WTCC に参戦しているのは、BMW (2005 年から 2007 年で 3 年連続チャンピオン)、シボレー (2010 年のポイントランキングトップ) のメーカー系チームとヨーロッパを中心に活動するプライベートチームで構成され、年間エントリー 20 台と毎レースごとにエントリーされるスポットエントリーの数台によりレースが行われる。

### 輝きを放つベテランドライバー達のテクニック

参戦ドライバーにはベテラン勢が多い。レース距離が短く体力的なハンデが少ないことも大きな理由だが、長年のレース経験で培った巧みなドライビングテクニックや駆け引きなど、若手に真似のできないレースを見せてくれる。こうしたベテランのテクニックは、他のレースでは見ることが少なくなっただけにテクニカルな鈴鹿の東コースでどのようなレースを見せてくれるのか、正に必見だ。

### 往年の名ドライバーが WTCC で大活躍

かつて F1 に参戦していたガブリエル・タルキーニ (48 歳・イタリア) は 2009 年のシリーズチャンピオンを獲得し、今シーズンも現在チャンピオンシップで僅差の 2 位につける活躍を見せている。そして、2008 年のチャンピオンで現在ポイントランキングトップのイヴァン・ミュラー (41 歳・フランス) もヨーロッパではツーリングカーや氷上レースなどの名手として知られるベテランドライバー。

また、日本のフォーミュラニッポンや GT で NSX を駆り、大活躍したことで記憶に新しいトム・コロネル (38 歳・オランダ) も 2008 年の日本ラウンド岡山国際サーキットで優勝するなど活躍している。

## スーパー耐久

WTCC と同日にフルコースで開催されるスーパー耐久も見所溢れるレースとなりそうだ。

シリーズの一戦として開催されるスーパー耐久も、チャンピオンシップをかけた戦いが行われる。普段、街で見慣れた日本車のエントリーが多く、親しみのあるマシンが多いことも特徴。

### ダブルエントリーする日本人ドライバーの奮起に期待

WTCC とダブルエントリーする日本人ドライバーの活躍にも注目が集まる。同じツーリングカーとはいえ、異なるマシンを乗り継ぎ、耐久レースとスプリントレース 2 回を戦うことで注目度が高くなる。特に WTCC では日本代表として戦うため、自然と応援に力が入る。

### スーパー耐久ならではの様々なイベント展開

長い歴史のあるスーパー耐久では毎年様々なイベントが展開されている。お子様向けのイベントから、華やかなステージイベントなど幅広いファンに人気を博している。これらのイベントを WTCC にも同じように展開することで同時開催の楽しみが増えてくる。



スーパー耐久でのキッズグリッドの様子



ステージでのレースクイーン・オン・ステージ